

令和7年度開講科目 講義シラバス

理学療法学科
昼間コース
2年

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

令和7年度 年間予定

理学療法学科(昼間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月3日(木)	始業 4月7日(月)	始業 4月7日(月)
	面談 4月1日(火) ～ 随時	面談 4月1日(火) ～ 随時	講義 4月7日(月) ～ 4月11日(金) 6月9日(月) ～ 6月20日(金) 8月18日(月) ～ 8月22日(金) 臨床実習Ⅲ ①4月14日(月) ～ 6月6日(金) ②6月23日(月) ～ 8月15日(金) 臨床実習Ⅳ ※ ①6月16日(月) ～ 8月29日(金) ②8月25日(月) ～ 10月31日(金) 学内就職説明会 6月12日(木) 合同就職説明会 8月23日(土) 講義および国家試験対策 11月4日(火) ～ 2月20日(金) 第61回 国家試験 2月23日(祝・月)予定 卒業証書授与式 3月6日(金)
	講義 4月7日(月) ～ 7月18日(金)	講義 4月7日(月) ～ 7月18日(金)	
	補講・定期試験期間 7月22日(火) ～ 8月8日(金) 8月12日(火)～14日(木)予備日	補講・定期試験期間 7月22日(火) ～ 8月8日(金) 8月12日(火)～14日(木)予備日	
	夏季休業 8月15日(金) ～ 8月31日(日)	夏季休業 8月15日(金) ～ 8月31日(日)	
	再試験(対象者のみ) 8月21日(木) ～ 8月29日(金)	再試験(対象者のみ) 8月21日(木) ～ 8月29日(金)	
	講義 9月1日(月) ～ 12月12日(金)	講義 9月1日(月) ～ 12月12日(金)	
後期	補講・定期試験期間 12月15日(月) ～ 12月26日(金) 1月 5日(月) ～ 1月9日(金) 1月13日(火)～15日(木)予備日	補講・定期試験期間 12月15日(月) ～ 12月26日(金) 1月 5日(月) ～ 1月9日(金) 1月13日(火)～15日(木)予備日	
	冬季休業 12月29日(月) ～ 1月3日(土)	冬季休業 12月29日(月) ～ 1月3日(土)	
	再試験期間(対象者のみ) 3月2日(月) ～ 3月13日(金)	再試験期間(対象者のみ) 3月2日(月) ～ 3月13日(金)	
	臨床実習Ⅰ 1月19日(月) ～ 2月28日(土)	臨床実習Ⅱ 1月19日(月) ～ 2月28日(土)	
	春季休業 3月16日(月) ～ 3月31日(火)	春季休業 3月16日(月) ～ 3月31日(火)	

※ 臨床実習Ⅳは学内評価期間を含む。

学校法人 巨樹の会			小倉 リハビリテーション学院		理学療法学科		昼間コース		カリキュラム			
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間 数	単位 数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2	
		自然科学	統計学				30			30	2	
			情報処理				30			30	2	
			物理学	30						30	2	
		コミュニケーション学	基礎教養		30					30	2	
			対人関係演習Ⅰ	30						30	2	
対人関係演習Ⅱ			30					30	2			
専門 基礎 分野	人体の構造と機能及び心身の 発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30						30	2	
			解剖学Ⅱ		30					30	2	
		生理学	生理学Ⅰ	30						30	2	
			生理学Ⅱ		30					30	2	
		運動学	運動学Ⅰ	60						60	4	
			運動学Ⅱ		30					30	2	
			運動学演習Ⅰ	30						30	2	
			運動学演習Ⅱ		30					30	2	
		人間発達学	人間発達学		30					30	2	
		疾病と障害の成り立ち及び回 復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30						30	2
	リハビリテーション基礎医学Ⅱ				30					30	2	
	臨床医学総論		医学概論	30						30	2	
			病理学概論			30				30	2	
	臨床医学各論		整形外科科学			30				30	2	
			内科学			30				30	2	
			神経内科学			30				30	2	
		臨床心理学		30					30	2		
	保健医療福祉とリハビリテ ーションの理念	リハビリテーション概論・医 学	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30						30	2	
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30						30	2	
	専門 分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	30						30	1
				基礎理学療法学Ⅱ	30						30	1
生活機能演習							30			30	1	
臨床運動学			臨床運動学演習Ⅰ		30					30	2	
			臨床運動学演習Ⅱ			30				30	2	
理学療法管理学		理学療法管理	理学療法管理学					30		30	2	
理学療法評価学		理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ	60						60	2	
			基礎評価学演習Ⅱ		60					60	2	
			基礎評価学演習Ⅲ			60				60	2	
			臨床評価学演習Ⅰ	30						30	1	
			臨床評価学演習Ⅱ		30					30	1	
理学療法治療学		運動療法学	運動療法学演習		60					60	2	
		物理療法学	物理療法学		30					30	1	
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ			30				30	1	
			日常生活活動学演習Ⅱ				30			30	1	
		義肢装具学	義肢学			30				30	1	
			装具学				30			30	1	
		疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2	
			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2	
			運動器疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2	
			運動器疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2	
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2	
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2	
			小児疾患の理学療法学				30			30	1	
			理学療法学技術演習Ⅰ			60				60	2	
			理学療法学技術演習Ⅱ				60			60	2	
			理学療法総合学習	理学療法学総合学習Ⅰ						60	60	2
		理学療法学総合学習Ⅱ							60	60	2	
理学療法学総合学習Ⅲ								60	60	2		
地域理学療法学		地域理学療法学	生活環境学				30			30	2	
			地域理学療法学演習				30			30	2	
臨床実習		臨床実習	臨床実習Ⅰ		45					45	1	
			臨床実習Ⅱ				45			45	1	
			臨床実習Ⅲ					360		360	8	
			臨床実習Ⅳ					450		450	10	
* 基礎分野：講義15～30時間1単位 * 専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位 実習30～45時間1単位 * 専門分野：同上 * 臨床実習：40～45時間1単位			基礎分野	90	60	0	60	0	0	210	14	
			専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42	
			専門分野	150	210	360	450	30	180	1380	51	
			実習	0	45	0	45	810	0	900	20	
			前期・後期小計	510	555	480	555	840	180	3120	127	
			前後期合計	1065		1035		1020				

シラバス

I . 基礎分野

講義科目	統計学					
担当講師	磯邊 恵理子			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2 年後期	実務経験	急性期病院・在宅分野において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション		①統計の必要性 ②4つの尺度 ③研究デザイン			
2	データのばらつき		①分散 ②基準値 ③偏差値			
3	正規分布		①母集団と標本 ②正規分布 ③標準正規分布			
4	割合の検定		①有意水準と仮説検定 ②二項分布の正規近似 ③演習問題			
5	t 検定		①演習問題 ② t 値（ t 統計量） ③t分表の見方			
6	演習①		1回から 5 回までの確認テストまたはレポート			
7	演習①解説		①演習問題の解説 ②グループで復習			
8	カイ 2 乗分布		①観測度数と期待度数 ②カイ 2 乗統計量 ③カイ 2 乗分布表			
9	区間推定		①検定と推定 ②標本平均の分布 ③95%信頼区間			
10	感度と特異度		①クロス集計 ②仮説検定の誤り ③感度と特異度			
11	相関		①共分散 ②相関係数r ③母相関係数の検定			
12	回帰		①回帰直線の求め方 ②回帰曲線を求める公式 ③練習問題			
13	演習②		7回から 11 回までの確認テストまたはレポート			
14	演習②解説		①演習問題の解説 ②レポート提出			
15	まとめ		①学習の振り返り ②国家試験に向けて			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	すぐできる！リハビリテーション統計		山本澄子・谷浩明		南江堂	
参考図書等						
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくリハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。					

講義科目	情報処理			
担当講師	本山 晴子			授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	2
教育目標	コンピュータの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。			
No	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション (情報システムとは)	①情報システムの仕組みを理解する。 ②クラウドのシステムと使い方を理解する。 または、クラウドコンピューティングのシステムと使い方を理解する。		
2	情報セキュリティー (情報モラル、著作権、ネットワークを利用する上での注意点)	①情報セキュリティについて理解する。 ②SNSリテラシーを理解する。		
3	Windowsの基本操作	①OSについて理解できる。 ②ファイル管理操作ができる。		
4	Word（日本語入力システム、文字の入力、特殊な入力方法）	①正確な文字入力ができる。		
5	Word（文章の入力、保存、印刷設定）	①Wordを用いて文章を入力し、印刷の詳細な設定ができる。		
6	Word（編集、表作成、イラスト挿入）	①Wordを用いてビジネス文書を作成できる。		
7	Excel（データ入力、ワークシート編集）	①表計算ソフトの基本的な操作ができる。		
8	Excel（計算式、グラフ）	①表計算ソフトを用いて計算式を自分で組み立て、それを元にグラフを作成することができる。		
9	Excel（グラフ、関数）	①表計算ソフトを用いて関数を使用し、データ分析ができる。 ②グラフの詳細設定ができる。		
10	Excel（関数）	①表計算ソフトを用いて複雑な関数を使用し、データの加工ができる。		
11	Excel（データベース機能）	①表計算ソフトを用いて大量のデータを効率的に管理できる。		
12	PowerPoint（プレゼンテーションとは、プレゼンテーションソフトの基本操作）	①プレゼンテーションについて説明できる。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。		
13	PowerPoint（ビジュアルツールを利用した効果的なプレゼンテーションの作成）	①視覚的に効果的なツールを使用し、スライドを作成することができる。		
14	PowerPoint（発表技術、配布資料）	①プレゼンテーションを行う際のポイント、配布資料について説明できる。		
15	まとめ	①習熟度にあわせて補足を行う。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	情報利活用 基本演習		土岐順子	日経BPソフトプレス
	Word 2021 & Excel 2021 & PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応（よくわかる）大型本			FOM出版
参考図書等	医療従事者のための情報リテラシー		著：森由紀 監修：中村健壽	日経BP社
	情報利活用コンピュータリテラシー		山崎紅	日経BPソフトプレス
授業方法	授業はテキストを使用し演習形式で行います。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	欠席するとついてこれなくなる事もありますので欠席しないようにして下さい。また、使わないと覚えられませんので積極的にコンピュータを使用して習得しましょう。			

Ⅱ. 專門基礎分野

講義科目	病理学概論			
担当講師	張 皿		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標	①疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する			
No	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる		
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる		
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる		
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる		
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる		
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる		
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる		
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる		
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる		
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる		
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる		
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝癌、胆石症、膵癌について説明できる		
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる		
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる		
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる		
教科書	書籍名		著者	出版社
	はじめの一步のイラスト病理学		深山 正久 編	羊土社
	カラーで学べる病理学 第4版（和白）		渡辺 照男 編	ヌーヴェル ヒロカワ
	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学(八千代)		大橋 健一	医学書院
参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学		大橋 健一	医学書院
授業方法	講義形式。適宜画像を供覧。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験
履修上の注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化はPT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。			

講義科目	整形外科学					
担当講師	新行橋病院 医師 林 輝真 佐伯 和則			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース		理学療法学科 2年前期		単位数	2
教育目標	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。					
講義計画（講義内容を含む）						
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。				
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。				
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。				
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。				
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。				
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。				
7	靱帯損傷	①代表的な靱帯損傷の症状・診断・治療を理解する。				
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。				
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。				
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。				
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。				
12	慢性関節疾患（退行性・代謝性）	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。				
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。				
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。				
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準整形外科		内田 淳正		医学書院	
参考 図書等	病気が見える Vol.11 運動器・整形外科		医学情報科学研究所		メディックメディア	
	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学				医学書院	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。					

講義科目		内科学					
担当講師		新行橋病院 医師 井上 祥教		授業時間数	30		
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期		単位数	2	
教育目標		内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）				
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際		①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。				
2	症候学		①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。				
3	循環器疾患 ①		①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。				
4	循環器疾患 ②		①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環動態を理解する。				
5	循環器疾患 ③		①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。				
6	呼吸器疾患 ①		①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。				
7	呼吸器疾患 ②		①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。				
8	消化管疾患		①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。				
9	肝胆膵疾患		①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。				
10	血液・造血器疾患		①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。				
11	代謝性疾患 ①		①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。				
12	代謝性疾患 ②		①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。				
13	内分泌疾患		①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。				
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患		①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のⅠ～Ⅴ型の生じ方と関連疾患について理解する。				
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症		①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。				
教科書		書籍名		著者		出版社	
		標準理学療法学・作業療法学 内科学		大成 浄志		医学書院	
参考 図書等		病気がみえる vol.1 消化器 第5版		医療情報科学研究所（編集）		メディックメディア	
		病気がみえる vol.2 循環器 第3版		医療情報科学研究所（編集）		メディックメディア	
		病気がみえる vol.4 呼吸器 第2版		医療情報科学研究所（編集）		メディックメディア	
授業 方法		講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意		近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。					

講義科目	神経内科学					
担当講師	新小文字病院 医師 川上 留理子			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース		理学療法学科 2年前期		単位数	2
教育目標	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	神経内科学オリエンテーション		①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②中枢神経と末梢神経の違いを理解する。			
2	神経学的検査と臨床検査①		①脳の構造と機能の概要を理解する。 ②画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。			
3	神経学的検査と臨床検査②		①脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ②脳神経検査，身体機能検査の診断基準を理解する。			
4	神経症候学(1)		①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。			
5	神経症候学(2)		①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。			
6	神経症候学(3)		①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。			
7	脳血管障害(1)		①脳血管障害の分類及び危険因子，病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。			
8	脳血管障害(2)		①脳出血の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。			
9	脳血管障害(3)		①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序，診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序，分類，診断と治療を理解する。			
10	髄膜炎・脳腫瘍		①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。			
11	認知症		①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。			
12	変性疾患(1)		①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。			
13	変性疾患(2)		①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。			
14	脱髄疾患		①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。			
15	神経筋疾患		①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。（神経原性） ②筋ジストロフィー症（典型例）の病態と症状を理解する。（筋原性） ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。（神経筋接合部）			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		川平 和美 編		医学書院	
	病気が見える 7（脳・神経）		医療情報科学研究所		Medic Media	
参考図書等						
授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。					

Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	生活機能演習					
担当講師	波多野 浩子				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション ICFにおける生活機能 概要		ICFの構成を確認し、生活機能の構成要素とその関連を理解する。			
2	ICFにおける生活機能 詳細		ICFにおける生活機能の各項目の詳細を理解する			
3	生活機能と環境因子・個人因子 概要		ICFの構成を確認し、生活機能と環境因子・個人因子の関連を理解する			
4	模擬症例紹介		模擬症例（中枢神経系障害・運動器系障害患者）を参照し、レポート作成の方法を理解する			
5	運動器系障害患者の生活機能① （生活機能低下）		運動器系障害患者における生活機能の低下を想定する			
6	運動器系障害患者の生活機能② （評価）		生活機能の低下に対する評価項目を列挙する			
7	運動器系障害患者の生活機能③ （理学療法）		生活機能の低下に対する理学療法を立案する			
8	運動器系障害患者の生活機能④ （予防）		生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える			
9	運動器系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）		グループで発表を行い、聴講し、理解を深める			
10	中枢神経系障害患者の生活機能① （生活機能低下）		中枢神経系障害患者における生活機能の低下を想定する			
11	中枢神経系障害患者の生活機能② （評価）		生活機能の低下に対する評価項目を列挙する			
12	中枢神経系障害患者の生活機能③ （理学療法）		生活機能の低下に対する理学療法を立案する			
13	中枢神経系障害患者の生活機能④ （予防）		生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える			
14	中枢神経系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）		グループで発表を行い、聴講し、理解を深める			
15	ICFにおける生活機能		症例を通して学んだ生活機能の理解を確認する			
教科書	書籍名			著者		出版社
	特になし					
参考 図書等	ICFの理解と活用			上田 敏		萌文社
	整形外科ビジュアルリハビリテーション			稲川 利光		学研メディカル秀潤社
	病気が見える 7（脳・神経）			医療情報科学研究所		Medic Media
授業 方法	グループワーク及び調べ学習、レポート作成 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う	
履修上の 注意	グループワークを中心にレポートを作成します。個々の調べ学習をグループで集約し、知識を深めましょう。					

講義科目	臨床運動学演習Ⅱ					
担当講師	宮崎 祐二				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	異常姿勢・姿勢分析		①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。			
2	運動器系疾患の歩行分析①		①運動器系疾患（1）の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患（1）の歩行を観察し、模倣する。			
3	運動器系疾患の歩行分析②		①運動器系疾患（1）の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。			
4	運動器系疾患の歩行分析③		①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。 ②運動器系疾患（2）の歩行の特徴を考える			
5	運動器系疾患の歩行分析④		①運動器系疾患（2）の歩行を観察し、模倣する。 ②運動器系疾患（2）の歩行観察内容を記載する。			
6	運動器系疾患の歩行分析⑤		①観察した異常歩行の原因について考察し記載する。 ②観察した運動器系疾患の歩行について説明する。			
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①		①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②		①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
9	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③		①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。			
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①		①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の立ち上がり動作を模倣する。			
11	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②		①観察した立ち上がり動作について説明する。			
12	中枢神経系疾患の歩行分析①		①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。			
13	中枢神経系疾患の歩行分析②		①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
14	中枢神経系疾患の歩行分析③		①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。			
15	基本動作・歩行振り返り		①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。			
教科書	書籍名			著者		出版社
	動作分析 臨床活用講座			石井慎一郎		メジカルビュー社
	観察による歩行分析			月城慶一,他（訳）		医学書院
参考図書等						
授業方法	講義と演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。					

講義科目		基礎評価学演習Ⅲ							
担当講師		増見 伸 波多野 浩子			授業時間数	60			
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	整形外科領域病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2			
教育目標		基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	中枢神経系疾患の評価総論		中枢神経系疾患の評価の意義・目的 中枢神経系疾患のリスク管理 中枢神経系疾患の画像評価		16	股関節疾患の評価①		股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
2	意識・認知機能の評価		意識レベルとは、JCS・GCSの検査法 認知とは、HDS-R、MMSEの検査		17	股関節疾患の評価②		股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
3	脳神経検査①		脳神経の役割		18	膝関節疾患の評価①		膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
4	脳神経検査②		脳神経検査の意義・方法・実技		19	膝関節疾患の評価②		膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
5	脳神経検査③		脳神経検査の意義・方法・実技		20	足関節疾患の評価		足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト	
6	筋緊張検査①		筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性		21	脊椎疾患の評価①		脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
7	筋緊張検査②		筋緊張検査の方法と記載法		22	脊椎疾患の評価②		脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
8	協調性検査①		協調性検査の種類、実技		23	上肢疾患の評価①		上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト	
9	協調性検査②		協調性検査の種類、実技		24	上肢疾患の評価②		上肢の整形外科テスト	
10	片麻痺機能検査①		Brunnstrom stage test（概要）		25	その他の評価		まとめ、復習	
11	片麻痺機能検査②		Brunnstrom stage test（実技）		26	姿勢制御とバランス反応		姿勢の制御について バランス反応とは	
12	片麻痺機能検査③		Brunnstrom stage test（実技）		27	バランス評価①		バランス評価とは ①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応	
13	片麻痺機能検査④		12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)		28	バランス評価②		FRT(Functional Reach Test)および TUG(Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義	
14	片麻痺機能検査⑤		SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) 脳卒中に関する評価		29	バランス評価③		BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義	
15	骨関節系疾患の評価総論		評価の意義・目的 リスク管理 骨関節系疾患の画像評価		30	歩行評価		歩行評価とは 10m歩行	
教科書	書籍名				著者		出版社		
	理学療法評価学				松澤正・他				
	脳卒中の機能評価 SIASとFIM（基礎編）				千野 直一				
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた				田崎義昭				
授業方法		演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法		定期試験		
履修上の注意		演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして色々な人とペアを組んで練習をして技術を獲得しましょう。 また、習熟度を確認しながら授業を進めていきます。							

講義科目	日常生活活動学演習 I						
担当講師	原田 薫					授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2 年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1	
教育目標	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self care の概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。						
No	講義計画		行動目標（学習目標）				
1	ADL の概念と範囲		ADL の概念や範囲を理解する。ADL と QOL の関係を理解する。				
2	日常生活活動の運動学①		静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。				
3	日常生活活動の運動学②		動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。				
4	起居・移乗動作について①		重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。				
5	起居・移乗動作について②		寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。				
6	起居・移乗動作について③		起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。				
7	起居・移乗動作について④		立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。				
8	起居・移乗動作について⑤		移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。				
9	self care について①		食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。				
10	self care について②		排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。				
11	self care について③		更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。				
12	移動補助具について（杖）①		杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。				
13	移動補助具について（杖）②		演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。				
14	移動補助具について（松葉杖）③		松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。 演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。				
15	移動補助具について（歩行器）④		歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。				
教科書	書籍名			著者		出版社	
	理学療法学テキストⅤ 日常生活活動（ADL）			千住 秀明		神陵文庫	
参考図書等	新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実践－			伊藤利之・江藤文夫		医歯薬出版	
	動作分析臨床活用講座・バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践			石井慎一郎		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。						

講義科目		日常生活活動学演習Ⅱ				
担当講師		伊織 信一			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標		障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する				
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	移動補助具について（車椅子）①		車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。 体圧分散の機器を必要に応じて使用することができる。			
2	移動補助具について（車椅子）②		演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
3	移動補助具について（車椅子）③		演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる			
4	日常生活活動の評価①		ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価の数量化方式のADL評価と実行可能なADL評価の特徴を説明できる。			
5	日常生活活動の評価②		代表的なADL評価の動作を細分化し、手順ごとに評価する方式と一定条件下でのADL動作能力、その他、IADL評価の特徴を説明できる。			
6	日常生活活動の評価③		QOLの各種評価法、ICFの分類と評価点の特徴を説明できる。			
7	日常生活活動の評価④		Barthel indexの概要・使用方法を理解し、採点を体験する。			
8	日常生活活動の評価⑤		FIMの概要・使用方法を理解し、代表的な評定尺度を説明できる。 FIMの認知項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
9	日常生活活動の評価⑥		FIMの運動項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。			
10	日常生活活動の評価⑦		FIMの症例検討			
11	日常生活活動の評価⑧		移動動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
12	日常生活活動の評価⑨		身の回り動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
13	日常生活活動の評価⑩		コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。			
14	福祉機器について		リフト・特殊寝台・自助具などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。			
15	日常生活活動 総括		学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。			
教科書	書籍名			著者		出版社
	日常生活活動（ADL）			千住 秀明		神陵文庫
	脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)			千野直一		金原出版
参考図書等	新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版			飛松 好子		医歯薬出版
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。					

講義科目	義肢学					
担当講師	宮崎 祐二				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	切断と義肢の基礎知識①		①切断・離断とは ②義肢 ③骨格・殻構造 ④切断高位 ⑤上肢下肢の切断原因・発生率 ⑥切断術と処理について理解する			
2	切断と義肢の基礎知識②		①切断術後のリハビリテーションの流れ ②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義について理解する			
3	大腿切断①		①大腿義足ソケットの種類と特徴 ②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御について理解する			
4	大腿切断②		①膝離断の特徴・ソケット ②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴 ④大腿義足のベンチアライメントについて理解する			
5	大腿切断③・膝関節離断		①大腿義足のスタティック・ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行 ③膝離断用義足のアライメントについて理解する			
6	大腿切断の異常歩行		①異常姿勢・異常歩行について理解する			
7	下腿切断		①下腿義足ソケットの種類と特徴 ②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行について理解する			
8	サイム切断		①サイム義足ソケットの種類と特徴 ②サイム義足のアライメントについて理解する			
9	片側骨盤切断・股関節離断①		①股義足の種類と特徴 ②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴について理解する			
10	股関節離断②・足部切断		①股義足のアライメント ②足部切断の種類 ③足部部分義足の種類・特徴について理解する			
11	下肢切断のリハビリテーション		①下肢切断に対する評価項目と意義 ②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点について理解する			
12	断端の合併症		①幻肢・幻肢痛・神経腫 ②幻肢・幻肢痛・神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮 ④拘縮予防の理学療法について理解する			
13	下肢切断のリハビリテーション		①義足装着理学療法項目と意義 ②歩行練習の流れ ③荷重練習の重要性 ④応用歩行 ⑤起居動作練習について理解する			
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション		①義手の機能的分類 ②手先具の種類と特徴 ③上肢切断に対する評価項目と意義 ④上肢切断に対する理学療法と意義について理解する			
15	まとめ		①大腿切断の異常姿勢・異常歩行 ②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断についてについて理解する			
教科書	書籍名			著者		出版社
	切断と義肢			澤村 誠志		医歯薬出版
参考図書等	15レクチャーシリーズ 義肢学			石川 朗		中山書店
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	自分がもし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということをいつも想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。					

講義科目	装具学					
担当講師	林 輝真				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	装具学総論		装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れにについて理解する。 保険制度について理解する。			
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)		下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。			
3	短下肢装具(2)		金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類・機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患・症状)について理解する。			
4	短下肢装具(3)		プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。			
5	長下肢装具(1)		長下肢装具の基本的構造要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類・機能について理解する。			
6	長下肢装具(2) 免荷装具		長下肢装具の使用目的・効果について理解する。 PTB免荷装具の構造・機能・適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造・機能・適応について理解する。			
7	股装具 膝装具		股装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。			
8	下肢装具のチェックアウト		下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。			
9	靴型装具と足底装具(1)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
10	靴型装具と足底装具(2)		靴型装具を用いた理学療法が出来るようになるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。			
11	対麻痺用装具・ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具		小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。			
12	体幹装具，側彎症装具(1)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
13	体幹装具，側彎症装具(2)		体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。			
14	上肢装具(1)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
15	上肢装具(2)		上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。			
教科書	書籍名			著者		出版社
	装具学			飛松好子、高嶋孝倫(編)		医歯薬出版
参考図書等	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学			石川朗、佐竹将宏		中山書店
授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できるようになる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。					

講義科目		中枢神経疾患の理学療法学 I							
担当講師		波多野 浩子				授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	理学療法学 2年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり		単位数	2		
教育目標		脳血管障害、脳腫瘍の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	中枢神経系障害の理学療法総論		脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。		16	急性期の理学療法		急性期理学療法の実際について理解する。	
2	中枢神経系障害の基礎解剖①		中枢神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能について理解する。		17	回復期の理学療法		回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
3	中枢神経系障害の基礎解剖②		辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。		18	回復期の理学療法		回復期理学療法の実際について理解する。	
4	中枢神経系障害の基礎解剖③		間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。		19	維持期・在宅期の理学療法		維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
5	中枢神経系障害の基礎解剖④		脳血管・脳脊髄液について理解する。		20	維持期・在宅期の理学療法		維持・在宅期理学療法の実際について理解する。	
6	中枢神経系障害の基礎解剖⑤		伝導路（上行路と下行路）の構造と機能について理解する。		21	中枢神経系障害の理学療法について		急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する	
7	脳梗塞の病態		脳梗塞の概要、分類（機序・臨床病型・病変部位からの分類）について理解する。		22	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作）	
8	脳出血の病態		脳出血の概要、各出血（被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血）の病態について理解する。		23	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢）	
9	脳梗塞・脳出血の画像診断		脳梗塞・脳出血の画像診断について理解する。		24	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （車椅子シーティング・移乗動作）	
10	くも膜下出血の診断と治療		くも膜下出血の疫学、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。		25	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （歩行・階段昇降・応用歩行）	
11	脳腫瘍の診断と治療		脳腫瘍の疫学、画像、診断、検査、治療について理解する。		26	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作）	
12	脳血管障害と脳腫瘍の病態まとめ		脳血管障害と脳腫瘍の病態についてまとめる。		27	中枢神経系障害のADL指導		理学療法を理解する。 （食事動作・嚥下障害）	
13	中枢神経系障害の理学療法各論		脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。		28	その他の理学療法について		上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。	
14	中枢神経系障害の理学療法各論		中枢神経系障害の評価を理解する。		29	その他の理学療法について		痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。	
15	急性期の理学療法		急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。		30	ADL指導・その他の理学療法について		中枢神経系障害のADL指導および、その他の理学療法についてまとめる。	
教科書		書籍名			著者			出版社	
		病気が見える7（脳・神経）			医療情報科学研究所			Medic Media	
		ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション			潮見 泰蔵			羊土社	
参考図書等		脳卒中理学療法の理論と技術			原寛美、吉尾雅春			MEDICAL VIEW	
		PT・OTのための画像のみかた			山下 敏彦 監修			金原出版	
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する				成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかりと復習すること。								

講義科目		中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ							
担当講師		波多野 浩子				授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	理学療法学 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり		単位数	2		
教育目標		中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について		16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。			
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断（脳葉の区分と溝・病巣）について		17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。			
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。		18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。			
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。		19	運動失調症の病態について①	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。			
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。		20	運動失調症の病態について②	運動失調の症状の特徴について理解する（片麻痺との違い）。			
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。		21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する。			
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。		22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。			
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。		23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。			
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。		24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。			
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。		25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。			
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷（頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷）の病態について理解する。		26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。			
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。		27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。			
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。		28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。			
14	パーキンソン病の病態について	パーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。		29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。			
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。 （Hoehn-Yahrの重症度分類）		30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる			
教科書		書籍名			著者		出版社		
		ビジュアル実践リハ脳・神経系リハビリテーション 病気が見える7（脳・神経）			潮見 泰蔵 医療情報科学研究所		羊土社 Medic Media		
参考図書等		高次脳機能障害学			石合 純夫		医歯薬出版		
		標準理学療法学・作業療法学 神経内科学			川平和美		医学書院		
		P T ・ O Tのための画像のみかた			山下 敏彦 監修		金原出版		
		日常生活活動（ADL）第2版			千住 秀明		神陵文庫		
授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験				
履修上の注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。								

講義科目		運動器疾患の理学療法学Ⅰ							
担当講師		増見 伸 古井 雅也			授業時間数	60			
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	整形外科領域病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2			
教育目標		運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	骨関節、外傷総論		骨折・脱臼・捻挫・靱帯損傷・創傷及び褥瘡について理解する		16	肩関節疾患②		変形性肩関節症の病態、治療、理学療法を理解する。	
2	高齢者と小児の骨折		①高齢者の身体特性、骨粗鬆症および骨折の特徴を理解する ②サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイルについて理解する ③小児の身体特性と骨折の特徴を理解する		17	スポーツ傷害①		上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
3	下肢の骨折①		股関節脱臼、骨盤骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		18	スポーツ傷害②		上肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
4	下肢の骨折②		大腿骨近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		19	スポーツ傷害③		下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
5	下肢の骨折③		大腿骨骨幹部骨折、大腿骨遠位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		20	スポーツ傷害④		下肢スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
6	下肢の骨折④		膝蓋骨骨折、脛骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		21	スポーツ傷害⑤		その他スポーツ外傷の病態、治療、理学療法を理解する。	
7	下肢の骨折⑤		足関節骨折、踵骨骨折、距骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		22	スポーツ傷害⑥		上肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
8	下肢の骨折まとめ		各下肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		23	スポーツ傷害⑦		下肢スポーツ障害の病態、治療、理学療法を理解する。	
9	上肢の骨折①		鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		24	スポーツ傷害まとめ		各スポーツ傷害の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
10	上肢の骨折②		上腕骨骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		25	変形性関節症（膝関節①）		変形性膝関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
11	上肢の骨折③		肘関節脱臼、前腕近位部骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		26	変形性関節症（膝関節②）		人工膝関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
12	上肢の骨折④		前腕骨幹部骨折、橈骨遠位端骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		27	変形性関節症（股関節①）		変形性股関節症の保存的治療との病態、治療、理学療法を理解する。	
13	上肢の骨折⑤		手の骨折の病態、治療、理学療法を理解する。		28	変形性関節症（股関節②）		人工股関節置換術後の治療、理学療法を理解する。	
14	上肢の骨折まとめ		各上肢骨折の病態、治療、理学療法の違いを理解する。		29	変形性関節症まとめ		下肢変形性関節症の病態、治療、理学療法の違いを理解する。	
15	肩関節疾患①		肩関節疾患の病態、治療、理学療法を理解する。		30	骨端症		骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。	
教科書		書籍名			著者			出版社	
		整形外科ビジュアルリハビリテーション			稲川 利光			学研メディカル秀潤社	
参考図書等		PT・OTのための画像のみかた			山下 敏彦 監修			金原出版	
		標準整形外科学			松野丈夫			医学書院	
		運動器障害理学療法学テキスト			細田多穂			南江堂	
授業方法		講義および実技を用いたグループワークを行う 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法		定期試験		
履修上の注意		解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。							

講義科目		運動器疾患の理学療法学Ⅱ				
担当講師		林 輝真 鈴木 彩			授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。				
No	講義計画	行動目標（学習目標）		No	講義計画	行動目標（学習目標）
1	疼痛疾患	①疼痛のメカニズムおよび急性痛・慢性痛・がん性疼痛を理解する。②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する。		16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法プログラムを理解する
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する		17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する		18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する		19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する		20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する		21	脊髄損傷③	①合併症を理解する
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。		22	脊髄損傷④	①評価（Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA）を理解する
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する （橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺）		23	脊髄損傷⑤	①頸髄損傷について理解する
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する （坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺、脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺）		24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法プログラムを理解する		25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する		26	脊髄損傷⑧	①頸髄損傷者の理学療法を実際に体験する
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する		27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する		28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法プログラムを理解する		29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する		30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する
教科書		書籍名		著者		出版社
		整形外科ビジュアルリハビリテーション		稲川 利光		学研メディカル秀潤社
		脊髄損傷の理学療法		武田 功		医歯薬出版
参考図書等		運動器障害理学療法学テキスト		細田多穂		南江堂
		動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション		田中宏太佳・園田茂		医学書院
		標準整形外科学		内田淳正		医学書院
授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。					

講義科目		内部障害系疾患の理学療法学 I							
担当講師		岡部 貴文			授業時間数	60			
開講年次	昼間コース	理学療法学 2年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2			
教育目標		代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	内部障害の理学療法とは		①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。		16	虚血性心疾患の病態、診断、治療		①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。	
2	代謝と栄養		①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。		17	心不全の病態、診断、治療		①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。	
3	メタボリックシンドロームの理学療法 ①		①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。		18	心臓リハビリテーション総論		①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。	
4	メタボリックシンドロームの理学療法 ②		②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。		19	循環器疾患の理学療法評価 ①		①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。	
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療		①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。		20	循環器疾患の理学療法評価 ②		②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。	
6	糖尿病の合併症と治療		①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。		21	循環器疾患の理学療法評価 ③		④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。	
7	糖尿病の理学療法 ①		①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。		22	循環器疾患の理学療法 ①		①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。	
8	糖尿病の理学療法 ②		③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。		23	循環器疾患の理学療法 ②		②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。	
9	循環器系の解剖学・生理学		①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。		24	循環器疾患の理学療法 ③		③不良反応が出現した際に適切な処置ができる。	
10	運動耐容能とその評価 ①		①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。		25	大動脈疾患の病態と理学療法		①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。	
11	運動耐容能とその評価 ②		③運動耐容能を評価する。 ④運動処方の実際を理解する。		26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法		①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。	
12	心電図の診かた ①		①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。		27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法		①末梢動脈・静脈・リンパ系の代表的疾患（ASO・DVT・リンパ浮腫：子宮がん・乳がん）の病態と理学療法を理解する。	
13	心電図の診かた ②		④モニター心電図を理解する。 ⑤ホルター心電図を理解する。 ⑥心電図と循環との関係を知る。		28	腎疾患の病態、検査		①腎疾患の病態、治療を理解する。	
14	不整脈の診かた ①		①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。		29	腎疾患の治療、理学療法		②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。	
15	不整脈の診かた ②		①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。		30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ		①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がい者の理学療法をまとめる。	
教科書	書籍名				著者		出版社		
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝				石川 朗		中山書店		
	内部障害理学療法テキスト				細田 多穂		南江堂		
参考図書等	病気が見える 循環器疾患				岡庭 豊		MEDIC MEDIA		
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環				高橋 仁美		中山書店		
	心電図のABC				五島 雄一郎		日本医師会		
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験				
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。								

講義科目		内部系障害の理学療法学Ⅱ							
担当講師		井上 祥教			授業時間数	60			
開講年次	昼間コース	理学療法学 2年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2			
教育目標		呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。							
No	講義計画		行動目標（学習目標）		No	講義計画		行動目標（学習目標）	
1	呼吸理学療法総論		運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。		16	呼吸器疾患の理学療法基本手技④		徒手的な呼吸介助手技の実施を経験する(パニックコントロールを含む)。	
2	呼吸器系の解剖学		呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。		17	酸素療法と呼吸理学療法		酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。	
3	呼吸器系の運動学		呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。		18	人工呼吸療法と呼吸理学療法		人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。	
4	呼吸器系の生理学		呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。		19	急性・慢性呼吸不全の理学療法		急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、胸腹部外科術後（肺・消化器がん等）の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。	
5	動脈血液ガス検査		動脈血ガスの目的、意義、基準値、動脈血酸素化能、換気能の指標を理解する。		20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法		慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。	
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患		呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。		21	吸引の概念と理論		吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。	
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査		代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。		22	吸引演習		吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。	
8	呼吸器疾患の理学療法評価①		肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。		23	呼吸器疾患の解釈と統合①		慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
9	呼吸器疾患の理学療法評価②		医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。		24	呼吸器疾患の解釈と統合②		慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
10	呼吸器疾患の理学療法評価③		運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。		25	呼吸器疾患の解釈と統合③		慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
11	呼吸器系の運動生理学①		運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。		26	呼吸器疾患の解釈と統合④		慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
12	呼吸器系の運動生理学②		運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。		27	呼吸器疾患の解釈と統合⑤		慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技①		コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。		28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ		悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。	
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技②		運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。		29	悪性腫瘍の治療（緩和ケア含む）と理学療法		手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。	
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技③		呼吸介助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。		30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ		呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。	
教科書		書籍名			著者			出版社	
		理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸			玉木 彰			中山書店	
		内部障害理学療法テキスト			細田 多穂			南江堂	
参考図書等		標準理学療法学 内部障害理学療法学			吉尾 雅春、高橋 哲也			医学書院	
		動画でわかる 呼吸リハビリテーション			高橋仁美,宮川哲夫,塩谷隆信			中山書店	
		リハビリテーションビジュアルブック 第2版			落合慈之、稲川利光			学研	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる必要に応じて遠隔授業を実施する				成績評価方法	定期試験			
履修上の注意		予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。							

講義科目		小児疾患の理学療法学					
担当講師		川上 留理子			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院および在宅医療において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標		小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する					
No	講義計画			行動目標（学習目標）			
1	正常運動発達			背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する			
2	発達・運動発達の評価			発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する			
3	正常姿勢反射の発達			中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する			
4	脳性麻痺の概論			療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する			
5	痙直型両麻痺の概要			痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達 について理解する			
6	痙直型両麻痺の理学療法			痙直型両麻痺の評価・理学療法 について理解する			
7	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法			痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 について理解する			
8	アテトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法			アテトーゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する			
9	脳性麻痺のまとめ			国家試験問題を解き、脳性麻痺に対する理解度を深める			
10	子どもの遺伝性疾患の概要			Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する			
11	子どもの遺伝性疾患の理学療法			Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する			
12	子どもの整形外科疾患（二分脊椎・ペルテス病など）			二分脊椎・ペルテス病・発育性股関節形成不全について理解する			
13	ダウン症の病態と理学療法			ダウン症の運動発達と理学療法について理解する			
14	発達障害について			発達障害の特徴と支援について理解する			
15	その他の疾患・まとめ			その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する 国家試験について知識を深める			
教科書	書籍名			著者		出版社	
	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト			細田 多穂 監修		南江堂	
参考図書等	写真で見る乳児の運動発達			Lois Bly (著), 木本 孝子, 中村 勇 (共訳)		協同医書出版	
	PTマニュアル 小児の理学療法			河村 光俊 (著)		医歯薬出版	
	イラストでわかる 小児理学療法学			上杉 雅之		医歯薬出版	
授業方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。						

講義科目		理学療法学技術演習 I				
担当講師		林 輝真 秋山 嘉和			授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）		No	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。		16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
2	疾患理解 1	大腿骨頸部骨折の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。		17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。		18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。		19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。		20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
11	評価項目の選択 1 演習	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。		26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。		27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。		30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
教科書	書籍名			著者		
参考図書等						
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点	
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目	理学療法学技術演習Ⅱ					
担当講師	川上 留理子 奥之山 峻				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院および在宅医療において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）		No	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。		16	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
2	疾患理解 1	脳血管疾患の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。		17	結果の解釈 3	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
3	症例提示 1	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。		18	結果の解釈 4	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
4	症例提示 2	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。		19	統合作業 1	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
5	動作観察 1	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。		20	統合作業 2	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
6	動作観察 2 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		21	統合作業 3	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。
7	動作観察 3	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		22	統合作業 4	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
8	動作観察 4	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。		23	問題点の整理 1	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
9	仮説の立案 1	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		24	問題点の整理 2	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
10	仮説の立案 2	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。		25	目標の設定、治療プログラムの作成 1	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
11	評価項目の選択 1 演習	脳血管疾患の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。		26	目標の設定、治療プログラムの作成 2	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
12	評価項目の選択 2 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。		27	治療プログラムの実施 1 演習	立案した治療プログラムを実施する。
13	仮説の整理 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		28	治療プログラムの実施 2 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。
14	仮説の整理 2	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。		29	発表 1 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
15	結果の解釈 1	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。		30	発表 2 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
教科書	書籍名			著者		出版社
参考図書等						
授業方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	定期試験70点 提出物・授業態度30点	
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目	生活環境学					
担当講師	坪田 和英				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	生活環境学とは		ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。			
2	法的・制度的環境		社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。			
3	関連制度		ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。			
4	生活とROM、日常生活上の注意点		①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。			
5	住環境整備の流れ、対策について		住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。			
6	住環境整備の流れ、対策について		段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。			
7	部屋別アプローチ①		アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。			
8	部屋別アプローチ②		脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。			
9	福祉用具について		福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。			
10	福祉用具について		福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。			
11	介護保険と住環境整備		介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。			
12	障害別住宅改修について		①脳卒中患者の住環境整備について ②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について			
13	事例検討①		環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。			
14	事例検討②		環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。			
15	まとめ		まとめ			
教科書	書籍名			著者		出版社
	理学療法テキストX 生活環境論			千住 秀明 監修		神陵文庫
参考 図書等	OT・PTのための住環境整備論 第3版			野村 歡 監修		三輪書店
	南江堂 生活環境学テキスト			細田多穂 監修		南江堂
授業 方法	講義、演習、グループワークを実施。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。					

講義科目	地域理学療法学演習					
担当講師	原田 薫				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	1. 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 3. 地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	地域リハビリテーションの概念		①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。			
2	地域理学療法の概念		①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネジメントの重要性を理解する。			
3	地域理学療法の関連法規 ① 医療保険制度		①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。			
4	地域理学療法の関連法規 ② 障害者総合支援法		①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。			
5	地域理学療法の関連法規 ③ 介護保険制度		①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。			
6	地域理学療法の実践① 入所・通所施設における理学療法		①入所施設における理学療法について説明できる。 ②通所施設における理学療法について説明できる。			
7	地域理学療法の実践② 訪問における理学療法		①訪問における理学療法について説明できる。 ②福祉用具および住宅改修の活用方法を説明できる。			
8	地域理学療法の実践③ 地域包括ケアにおける理学療法		①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法士の役割を知る。			
9	地域理学療法の実践④ 介護予防における理学療法		①NCD(認知症)予防、転倒予防の実践を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。			
10	健康維持・増進における理学療法 学校保健および特別支援教育における理学療法		①健康維持・増進における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。②学校保健および特別支援教育における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。			
11	スポーツ活動支援における理学療法		①スポーツ理学療法の概要と考え方について理解できる。 ②スポーツ活動支援における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。 ③障がい者スポーツ支援の概要と考え方について理解できる。 ④障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について理解できる。			
12	緩和ケア・終末期医療における理学療法		①緩和ケア・終末期医療における理学療法士の役割について理解できる。 ②緩和ケア・終末期医療における理学療法について理解できる。			
13	災害時の理学療法 国際支援における理学療法 産業理学療法		①大規模災害時における活動支援の概要および理学療法士の役割について理解できる。 ②国際支援における理学療法士の役割および関わる基盤について理解できる。 ③産業理学療法における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。			
14	事例検討		①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的方法を理解する。			
15	地域で働く理学療法士に必要な資質（まとめ）		①他職種連携の重要性を知る。 ②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。 ④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。			
教科書	書籍名			著者		出版社
	地域リハビリテーション学			重森 健太 編		羊土社
参考図書等	地域リハビリテーション論Ver.7			太田 仁史 編		三輪書店
	地域リハビリテーション学テキスト 改定第3版			備酒伸彦 他編		南江堂
	予防と産業の理学療法			樋口由美 他編		南江堂
授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験（60％） 発表、レポート（40％）		
履修上の注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。					

講義科目	臨床実習Ⅱ（地域実習）						
担当講師	原田 薫				授業時間数	45	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1	
教育目標	① 地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ② 実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③ 学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④ 実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。						
講義計画（講義内容を含む）							
【地域実習の概要】 地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成すること、及び生活期で実施されるリハビリテーション（主に訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション）の業務に関わりながら、それらの一部を体験・経験することを目的に地域実習を行う。地域実習では、1年次から2年次後期までに学習した、理学療法・作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識を基に、実習施設において実習指導者の指導・監督の下、理学療法・作業療法業務の見学や一部の業務について補助的に関わることを体験する。この体験を通して、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムにおける理学療法士・作業療法士の責任と自覚を培う。							
教育目標①「地域包括ケアシステムにおける施設の役割を理解し説明できる。」に対する行動目標 （認知領域）地域包括ケアシステムが構築された背景を説明できる。 （認知領域）地域包括ケアシステムの目的を説明できる。 （認知領域）地域包括ケアシステムにおける通所又は訪問リハビリテーションの役割を説明できる。							
教育目標②「実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。」に対する行動目標 （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している理学療法士・作業療法士の役割を説明できる。 （認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している他専門職の役割を説明できる。							
教育目標③「学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。」に対する行動目標 （情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 （情意領域）提出物を期限内に提出することができる。 （情意領域）学校および施設の規則やスケジュールに従って行動することができる。 （情意領域）実習指導者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 （情意領域）他専門職と関わり、良好な関係を構築・維持できる。 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、感染対策を意識した行動がとれる。							
教育目標④「実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。」に対する行動目標 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、対象者に対し相応しい態度や対応がとれる。 （情意領域）対象者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 （精神運動領域）対象者の一般的情報をカルテ等から収集し、問題点や目標について実習指導者へ考えを述べることができる。 （精神運動領域）学内で学んだ知識・技術を活かし、実習指導者の管理下のもと一部の業務が補助できる。							
教科書	書籍名			著者		出版社	
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ 第3版			鶴見隆正 編集		医学書院	
授業方法	学内実習及び施設実習		成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価			
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。						